

公立大学協会

公立大学協会ニュースレター Vol.4/No.3

2010年1月1日発行（通刊第18号）

【発行責任者】矢田 俊文（公立大学協会会長／北九州市立大学長）

【編集責任者】中田 晃（公立大学協会事務局長）

〒105-0003 東京都港区西新橋1-6-13 虎ノ門吉荒ビル9F

TEL(03)3501-3336 FAX(03)3501-3337

E-mail: jimju@kodaikyo.jp URL: http://www.kodaikyo.org/

公立大学協会は全国 77
すべての公立大学により
組織されています。

2010年の新たな出発にあたり

公立大学協会 会長 矢田俊文(北九州市立大学長)

新年あけましておめでとうございます。

2009年は、公立大学にとっても大きな逆風が吹き荒れた年でした。大学間の競争の激化、一昨年秋以来の世界不況による深刻な就職難、加えて国及び地方自治体の厳しい財政難による予算削減といった状況のもと、5月総会で発足した新理事会を中心に協会活動を展開してきました。

昨年は公立大学協会創立60周年にあたり、「公立大学のプレゼンスの向上」を期して記念事業を実施して参りました。12月1日には、瀬戸上健二郎先生、潮谷義子先生をメインスピーカーに迎え、記念シンポジウム(次面参照)を開催、続いて記念式典、記念祝賀会を関係者多数の出席を得て無事挙行することができました。これらの開催にあたりましては、各省庁、設置団体、共に高等教育を支える大学団体等の皆様にご支援をいただき、また会員校には、広報の実施、展示への出展等、大きな力を結集していただき、厚くお礼申し上げます。

また、2009年は政権交代という大きな変化がありましたが、公立大学にとっては、高等教育政策・医療福祉政策等と公財政支出について、国と地方自治体、国の担当省庁の間で整合性のない状態が依然として続いており、それぞれの現場で戸惑いが生じています。公立大学協会では新政権に対し、この問題について真摯に訴えてまいりました。

去る11月20日には、川端達夫文部科学大臣、中川正春文部科学副大

臣、鈴木寛文部科学副大臣を訪問し、公立大学に対する国・地方による行財政分担制度の課題について説明し意見交換を行いました。

続いて、平成22年度予算に関し、国公立大学3団体で「平成22年度国公立大学に係る予算に関する要望」を、11月27日には川端文部科学大臣に対し、11月30日には民主党小沢一郎幹事長に対し吉田おさむ民主党副幹事長を通じてそれぞれ提出いたしました。公立大学に関しては、地方交付税措置の充実、とくに公立大学附属病院改築等大規模な設備投資を要する費用について、政府として特段の配慮をするよう要望に盛り込みました。いずれも、かなりの関心を示していただき、解決の灯が見え隠れし始めたとの感触を得ています。

さらに、これらに「総務省、文部科学省、厚生労働省および公立大学協



11月20日、文部科学大臣・両副大臣を訪問

会による恒常的な協議機関の設置」等の要望を加えて、12月8日、原口一博総務大臣に対し、公立大学協会として要望書を提出し、24日にその内容について総務省政務三役に対し説明を行いました。

2010年も「公立大学のプレゼンスの向上」を柱として、また、新政権の「地域主権」重視の姿勢に期待をもちつつ、粘り強く懸案の解決に取り組んでまいります。会員大学はじめ皆様の一層のご協力をお願いいたします。



公立大学協会創立60周年記念式典を、文部科学大臣（坂田東一事務次官）、総務大臣（望月達史官房審議官）、国立大学協会・野上智行専務理事、日本私立大学団体連合会・白井克彦会長他来賓の皆様のご参加を得て開催。

地域とともに作る公立大学

公立大学協会60周年記念シンポジウムが開催されました

公立大学協会は、60周年記念事業実施特別委員会(委員長・江里健輔副会長／山口県立大学長)の企画により、12月1日にホテルパシフィック東京(品川)において記念シンポジウム、記念式典、祝賀会を開催いたしました。

また、同特別委員会のもとに60周年記念誌編集作業部会(主査・加藤祐三相談役／元横浜市立大学長)を設置し、60周年記念シンポジウムの記録やこの10年間の公立大学及び公立大学協会の歴史をつづった、「公立大学協会60周年記念誌(仮称)」を発刊すべく現在編集作業を進めております。

記念シンポジウムは、保健・医療、福祉分野の人材育成を例にとり、様々な分野の公立大学が地域の知の拠点としてどのような役割を果たしているのかを探りました。パネルディスカッションに先立って、2つの記念講演をいただきました。講演・パネルディスカッションの記録は記念誌に掲載いたします。本号では、その概要を紹介いたします。

記念講演1 瀬戸上 健二郎 氏(下甕島 手打診療所 所長)

「ドラマより面白い離島医療 一島が育てた若き医療人とともに」

【プロフィール】 鹿児島大学医学部卒。同大学附属病院に勤務後、1972年から国立療養所南九州病院で外科医長を務める。78年、下甕村(現、薩摩川内市下甕町)手打診療所所長に赴任。専門は胸部外科で、肺ガンなどの難手術も手打診療所で成功させ、専門外の内科から産婦人科、獣医まで、幅広い分野を一手にこなす。他村の診療所との「診診連携」や、全国の医大からの研修生の受け入れ、インターネットを活用した医療連携など、離島・僻地医療の改善のために日々尽力している。

半年だけのつもりで赴任した鹿児島県の離島の診療所を、ついに30年以上守り続け、数々の難手術も行ってきた瀬戸上先生。島ならではの住民との信頼関係の中で育む医療の魅力、最後の砦としての医療機関の責任、動物を含めた多様な患者との出会い、島で育つ若き医療人の成長の姿など興味の尽きないエピソードが、とつとつとした語り口で語られ、聴衆は話の中にあつという間に引き込まれました。最後にローカルに徹する医療人としての生き方をさらに厳しく見つめ、いまなお追い求め続ける医療人としての決意をお話いただきました。

【公立大学への応援コメント(要約)】

お話を伺い、昔を思い出しました。医学部の6年間をどう過ごすかということが今も昔も大切なことです。現在私の島の診療所にも全国から学生がきますが、医学部に入って良かったという感想をもってけると私自身まで嬉しくなります。島が違えばすべてが違います。島で小学生だった子が、看護師になって戻ってくれたのは嬉しいことでした。公立大学の実践を伺い、地域の魅力を学生に

知ってもらう努力が非常に大事だと思いました。

記念講演2 潮谷 義子 氏(長崎国際大学長、前熊本県知事)

「時代と地域を呼吸する大学 一いのちと健康と暮らしを守る人づくり」

【プロフィール】 佐賀県生まれ。日本社会事業大学卒。佐賀県、大分県で社会福祉主事を務めたのち、慈愛園乳児ホーム(熊本県)の園長となる。1999年、熊本県の副知事に任命され、2000年、知事に就任。2期を務める。2009年4月、長崎国際大学学長に就任。

主な著書に、絵本「こころのメモリー」(文)潮谷愛一・潮谷義子、(絵・装丁)いわさき千鶴。「子どもを見る変化を見つめる保育」大森隆子・甲斐仁子・森山久子(編著)。

潮谷先生は、熊本県知事として県立大学の設置運営にあたられ、現在は長崎県と佐世保市、地域の経済界とのパートナーシップによって生まれた長崎国際大学の学長として活躍されています。

時代が求める大学像が変化する中で、公立大学は、単に地域に貢献すればよいということではなく地域と共に生きるという理念が求められる時代であると、熱く語っていただきました。

【公立大学への応援コメント(要約)】

各大学の取組みのどれも勉強になりました。この取組みを公立大学全体の質の向上につながるように評価していかなくてははいけません。地域

公立大学協会60周年記念シンポジウム
地域とともにつくる公立大学
 保健・医療、福祉とその人材育成を巡って

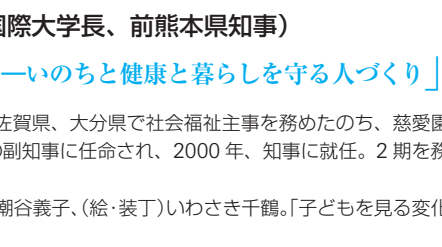
平成21年12月1日(火) 13:30~16:30 (開催13:00)
 ホテルパシフィック東京 (品川駅、有明口 徒歩3分)
 入場無料 (申込が必要ですが、先着300名)

記念講演
 「ドラマより面白い離島医療 一島が育てた若き医療人とともに」
 瀬戸上 健二郎 氏 (鹿児島大学 手打診療所 所長、「Dr.コトー」のモデル)
 「時代と地域を呼吸する大学 一いのちと健康と暮らしを守る人づくり」
 潮谷 義子 氏 (長崎国際大学長、前熊本県知事)

パネルディスカッション 「地域とともに育む、公立大学の人材養成」
 パネリスト：今井 浩三 (札幌医科大学)
 リポウィッツ よし子 (神戸国立保健大学)
 加倉田 恵子 (山口県立大学社会福祉学科)
 佐々木 雄太 (鹿児島大学)
 司会： 名取田 新 (福岡県立大学)

展示コーナー
 公立大学の産学連携・地域連携によるプロダクト
 公立芸術系大学・学際紹介と小作品展

申込：担当が不在、メール、FAXにて「60周年記念事業事務局」までのお問い合わせは、お問い合わせください。
 申込：電話 165-5003 担当時間 16:15時~17:00時(平日) 午後 メール jmu@tokai-u.jp FAX 011-3591-3337
 記入事項：お名前、ご所属、ご職名、お電話番号(お名前が不明な場合はお名前を併記して)、FAXの場合はFAX番号も併記してください。
 申込受付期間：12月1日(火)13:00~16:30



連携とは、あるがままを知るということ、大事な要素です。体験を積み重ねた謙虚な学びが大切だと思っています。

地域、コミュニティの語源には「志を同じにする」という意味があります。公立大学が志高く、地域の人々と共に発展することを願っています。



パネルディスカッション 地域とともに育む、公立大学の人材養成

パネルディスカッションは、福岡県立大学の名和田新学長を司会者として進行。パネリストは、札幌医科大学の今井浩三学長(腫瘍免疫学)、青森県立保健大学のリボウィッツよし子学長(在宅・終末期看護学)、山口県立大学の加登田恵子教授(社会福祉学)、愛知県立大学の佐々木雄太学長(国際政治学)の4人で、各地域での特色ある大学の取組みを発表しました。

はじめに、今井学長が「地域密着型チーム医療実習による大学改革」について発表。別海町、釧路市の医療機関、福祉施設で4学科合同チーム医療実習を実施したことや、一次予防教育

実践として小・中学校や老人クラブにおける健康教育セミナーを実施するなどの活動の報告をしました。

続いて、リボウィッツ学長が14年目を迎えた“障害者ねぶた”について報告。大学全体として推進する活動として、1年生から4年生までの学生と教職員も含めて100名が参加し、全体で300人以上と過去最大の参加となった市民ボランティアとしての活動を報告しました。

さらに、加登田教授からは、「ソーシャルワーカー養成と地域協働企画演習」のテーマで、ボランティア活動を通して社会性、コミュニケーション

能力を育成する学生、教員、地域が一体となった取組みを報告。

最後に佐々木学長が、医療・看護・福祉以外に、社会科学系、人文科学系、理・工学系、芸術系などの多様な公立大学が個性を発揮して教育・研究を行っているが、地域力を高め地域を創造し、自立した地域の知の拠点となる公立大学としての活動がどのように展開されているかを報告しました。

パネルディスカッションの最後には、お二人の記念講演者から、公立大学への応援メッセージをいただきました。



名和田学長



今井学長



リボウィッツ学長



加登田教授



佐々木学長



シンポジウム・式典・祝賀会・展示の様子



シンポジウムにおける瀬戸上健二郎先生の記念講演



記念式典の矢田会長式辞と来賓の方々



後藤 文部科学大臣 祝辞

祝賀会 愛知県立芸術大学・天野武子教授のチェロ、桐山建志准教授のヴァイオリンによる祝奏(コレルリ、ヴァイオリンソナタホ短調作品5-8)

芸術系大学の展示、地域連携・産学連携の事例展示がそれぞれ行われた。



平成21年度学長会議・臨時総会・常置委員会拡大会議

平成21年12月2日 ホテルパシフィック東京

60周年記念事業に続く翌日、平成21年度学長会議が開催され70名の学長等が参加した。

最初に、矢田会長より新政権発足後の協会の要望活動を中心に経過報告が行われた。続いて、第72回総会(臨時総会)を開催し、指名理事(会則の第10条5項)の残り1名について、奥野武俊大阪府立大学長を会長が指名し、理事として承認された。

続いて、第1、第2、第3の3つの常設委員会の拡大会議が開催され、各学長がそれぞれの会場に分かれて参加した。それぞれの委員長による経過報告の後、担当事項に沿って協議が行われた。

■ 第1委員会

金児委員長の経過報告の後に、国際水準に対応した教育及び研究の展開について以下の報告を受け、それぞれ質疑と協議を行った。

- 横浜市立大学の英語教育改革
(稲葉めぐみ横浜市立大学学務課長)
- 大阪市立大学全学共通教育における英語教育改革
(井狩幸男大阪市立大学准教授)
- 21世紀科学研究機構
(奥野武俊大阪府立大学長)



学長会議・総会

■ 第2委員会

「公立大学における教養教育についてのアンケート」結果についての小林委員長の概括報告に続き、北九州市立大学、山梨県立大学の特色ある取組みについて矢田俊文学長、伊藤洋学長が報告。協議では、それぞれの大学の取組みや考え方が順次報告された。

■ 第3委員会

江里委員長の報告の後、公立大学経営に関する作業部会の中間報告「公立大学職員の人事制度の在り方と人材育成について」を坂本委員(下関市立大学長)が報告、また事前にアンケート調査を行った公立大学長のマネジメントについても報告が行われ、これらを中心に協議が行われた。

平成21年度事務局長等連絡協議会

平成21年12月2日 ホテルパシフィック東京

学長会議と並行して、72名の事務局長等の参加により、事務局長等連絡協議会が開催された。矢田会長挨拶の後、高橋寛人横浜市立大学教授(教育学)から、「地域はなぜ大学を必要とするか—公立大学の設置の歴史から—」のテーマで、それぞれの地域における公立大学の設置の経緯とその背景となる政策等について講演が行われた。

協議は、会長大学である北九州市立大学の尾上一夫事務局長を議長として進められた。議題としては「新型インフルエンザへの対応」、「公立大学職員の人材育成と研修」についてが掲げられ、公立大学経営に関する作業部会の中間報告「公立大学職員の人事制度の在り方と人材育成について」が植田泰史下関市立大事務局長により報告された後、各大学の取組み等について協議が行われた。



事務局長等連絡協議会における高橋寛人教授の講演

公立大学協会の主な活動の記録 (2009.11.1 ~ 2009.12.17)

役職名組織名は全て日付当時

- 11月**
- 23日(月・火)★**公立大学経営に関する作業部会小会議(協会事務局)
- 13日(金)★**JACUIE(国公立大学団体国際交流担当委員長協議会)第16回会議 原島文雄・首都大学東京学長(第1委員会担当委員)出席(如水会館)
- 19日(木)★**第3回公立大学経営に関する作業部会〔下関市立大学〕
- 20日(金)★**文部科学大臣・副大臣表敬訪問 矢田俊文会長・小林俊一副会長・江里健輔副会長・中田晃事務局長★文部科学省高等教育局との意見交換 矢田会長・小林副会長・江里副会長・中田事務局長〔文部科学省〕★運営会議 矢田会長・小林副会長・江里副会長・中田事務局長(協会事務局)
- 27日(金)★**川端達夫文部科学大臣に対し「国公立大学に係る平成22年度予算に対する要望」提出(坂田東一文科事務次官代理受理) 小林副会長、中田事務局長ほか国私立大学団体〔文部科学省〕
- 30日(月)★**民主党小沢一郎幹事長に対し「国公立大学に係る平成22年度予算に対する要望」提出、対応の吉田おさむ副幹事長へ陳情 矢田会長、小林副会長、中田事務局長ほか国私立大学団体〔衆議院〕★第5回理事会(協会事務局)
- 12月**
- 1日(火)★**公立大学協会創立60周年記念シンポジウム・記念式典・記念祝賀会(ホテルパシフィック東京)
- 2日(水)★**学長会議、第72回総会(臨時総会)、第1委員会拡大会議、第2委員会拡大会議、第3委員会拡大会議(ホテルパシフィック東京)★事務局長等連絡協議会(ホテルパシフィック東京)★中央教育審議会大学分科会第11回質保証システム部会 意見陳述 佐々木雄太顧問(愛知県立大学長)(東海大学校友会館)
- 8日(火)★**「公立大学への行財政制度に関する要望」を民主党小沢一郎幹事長、原口一博総務大臣宛に提出(民主党本部、企業・団体委員会)
- 9日(水)★**「公立大学への行財政制度に関する要望」提出について、民主党吉田おさむ副幹事長に説明
- 中田事務局長(衆議院)
- 10日(木)★**第4回公立大学経営に関する作業部会〔下関市立大学〕
- 14日(月)★**(独)科学技術振興機構大垣博文調査員・榎波潤記調査員来局「地域大学サミット2010」に対する後援依頼
- 17日(木)★**国立大学附属病院院長会議事務局と同会議へのオブザーバー参加についての協議 中田事務局長(国立大学附属病院院長会議事務局)

事務局より

2010年を迎えました。昨年の60周年記念事業では、関係者の皆様、会員校のたくさんの方々の支援に支えられ無事式典等を終えることができましたこと、心よりお礼申し上げます。続いて、公立大学協会60周年記念誌の製作作業が始まっています。記念誌の発行についても様々ご協力を頂くことになりそうです。どうぞ、よろしくお願いいたします。